

令和8年度 第23回 新・湯治セミナー

日本三古泉から学ぶ温泉地のこれまでの歩みとこれからについて

～道後温泉のまちづくりの事例発表～

道後温泉旅館協同組合
理事長 帽子 大輔

2026年（令和8年）7月27日

I 温泉地として守り続けているもの

温泉資源と歴史文化
道後ブランド

1-1 守り続けているもの 温泉 資源

1 道後温泉の お湯の恵みを時代に繋ぐ

- (1) 三千年の歴史を誇る日本最古の湯！（日本の3古泉）
- (2) 「分湯場」で18本の源泉を使用し、常時、プロのブレンダーが、55度～20度の異なる温度の源泉と源泉をブレンドして、加水加温をしていない源泉100%の新鮮な湯を提供。
- (3) 泉質はアルカリ性単純温泉
赤ちゃんに最も優しい湯、美人の湯！
- (4) 源泉の所有と管理は松山市(特別会計 /道後温泉条例)
温泉の権利や総量・個別規制
- (5) 内湯開設70周年
(1956年昭和31年 内湯創設)
- (6) 魅せる源泉 第4分湯場 改築

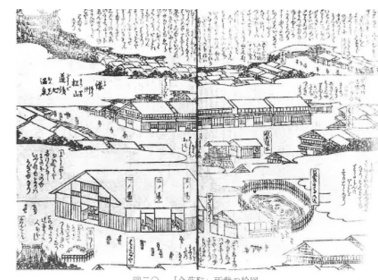


1-2 守り続けているもの 温泉の歴史文化

外湯の 歴史	596(法興6)	聖徳太子	伊予温泉に来浴	(伊予風土記逸文、釈日本記)
	639(舒明帝11)	舒明天皇	行幸	(日本書記)
	661(斉明帝7)	齐明天皇	行幸	(日本書記)
	1638(寛永15)	松平定行	道後温泉施設を拡充	(1745年道後湯治宿 125軒)
	1892 明25	養生湯改築	松湯・薬湯新築	
	1894 明27	道後温泉本館建築3層楼に	(伊佐庭如矢 道後湯之町初代町長)	
	1899 明32	霊の湯、又新殿 新築落成		
	1922 大11	砂湯・西湯を増設(株)		
	1927 昭 2	鷺の湯開設(大衆用)		
	1935 昭10	神の湯曳移転(男女2室に改造)		
	1948 昭23	新温泉 開設		
	1950 昭25	しらさぎ湯 開設	道後温泉本館	
	1951 昭26	鳩の湯 開設		
	1953 昭28	西湯を椿の湯に改築 (国体開催)		
	1956 昭31	新源泉掘削 旅館の内湯実現	(62軒706室2,003人収容)	
	1964 昭39	温泉センター開業		
	1966 昭41	経営破綻 財産区解消	温泉経営は松山市に移管	
	1984 昭59	椿の湯 改築		
	1994 平 6	道後温泉本館建築百周年・国重要文化財指定	カラクリ時計建設	
	2017 平29	「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」新築		
	2019 平31	1月 道後温泉本館 保存修理工事着工		
	2024 令 6	7月 道後温泉本館 保存修理工事完了	(予定より半年短縮)	



玉の石伝説



文政4年 (1821年)



新温泉

1-2 守り続けているもの 温泉の歴史文化

【歴史学術トピック】 奈良時代、「温泉」といえば「道後温泉」を指していたとされる！

【根拠】

現在普通名詞として使っている『温泉』という文字は、古事記や日本書紀など日本の古典には見えず、「湯」「湯泉」「温湯」で示し、「ゆ」と読ませていた。

日本書紀(720年完成)の中に、温泉に関する記載は4か所、計10回登場。

その内の3回が道後温泉で

「石湯」「伊予湯泉」「伊予温湯」と表記

『温泉』という表現が日本で初めて文字で登場したのが、747年 法隆寺伽藍縁起資材帳(財産目録)で、その名も「伊豫國温泉郡」(いよの国 ゆのこおり)

資料提供 : 前園実知雄 氏

奈良芸術短期大学教授/元 橿原考古学研究所 資料室長

596年
聖徳太子
道後來浴
の伝承と
温泉碑文

聖徳太子道後温泉碑

惟夫日月照於上而不私神井出於下无不給
所以機妙應百姓所以潛居若乃照給无偏私
異于壽國隨華臺而兩合沐神井而療疾詎
浴花池而化溺窺望山岳之巖嶠及真子平之
注猶相瘡而寧寢實相五百之張蓋臨朝啼鳥
而融時向曉亂晉之聒耳丹花卷葉而映照玉
弥葩以垂井徑過其下可優遊豈悟洪崖庭意
興才拙實衛七步後定君子幸无崇咲也

聖徳太子の直筆復元
赤字は想像復元

1-2 守り続けているもの

温泉の歴史文化

(歴史学術トピック)

奈良橿原考古学研究所特別理事
前園実知雄 氏 資料提供



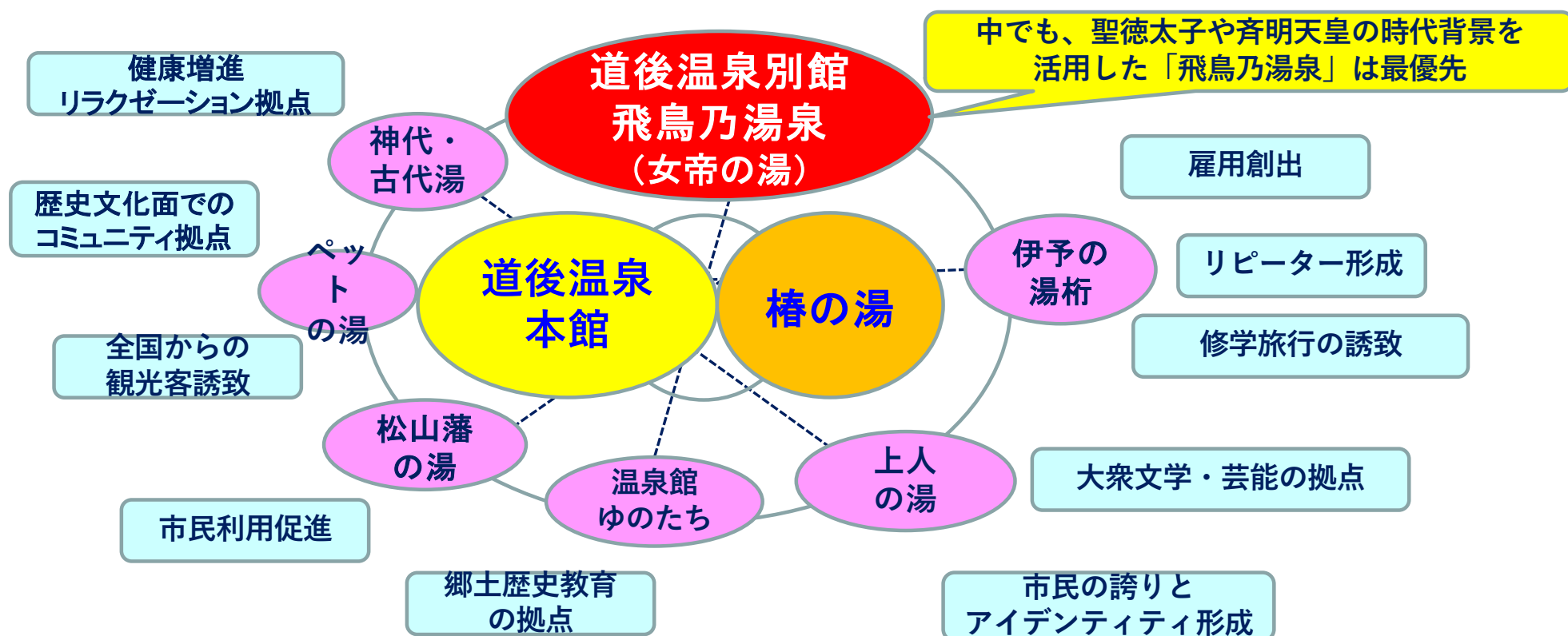
温泉郡

1-2 守り続けているもの 温泉の歴史文化

2 「第3の外湯・歴史的温泉施設群」構想 歴史的空間整備と復元したいテーマ

この構想は、既存の道後温泉本館および椿湯と連携し、新しい魅力創造を実現する歴史的温泉施設群をサテライト拠点とした都市型温泉郷空間を形成する考え方。

①道後温泉本館 ②椿湯 ③第3の外湯の、3館トータルの総合的活用を目指す。



1-2 守り続けているもの 温泉歴史文化

3 道後温泉別館 飛鳥乃湯泉 2017年（H29）完成



松山市道後温泉活性化協議会で
2013年答申

※ 提案 を携えての要望

市では公設民営とし
椿の湯以来33年ぶりの温泉施設

◆外観コンセプト

飛鳥時代の建築様式を取り入れた湯屋

◆館内テーマ：太古の道後

「愛媛の伝統工芸」×「最先端のアート」



◇揮毫
法隆寺管長



1-2 守り続けているもの 温泉歴史文化

2階 休憩室（大広間） 大洲和紙



1-2 守り続けているもの 温泉歴史文化



1-2 守り続けているもの 温泉歴史文化

特別浴室

(貸切り 2 室)

又新殿

(皇室専用 特別浴室を再現)

この 2 室でのみ

道後湯帳を設置

帝人フロンティアと共同開発



TEIJIN × 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会

1-2 守り続けているもの 温泉歴史文化

4 『道後湯帳』の共同開発・販売（商標登録済み）

- ① 目的 道後飛鳥乃湯泉特別浴室にて、女帝による入湯スタイルを復元
ハンディキャップがある方への配慮 と 国際化への対応
- ※湯帳とは・・・「ユカタビラ」とも言われ、一定以上の身分の人が
身に着けたものと考えられ、浴衣の原形となった
- ② 共同開発 帝人フロンティア
TEIJIN × 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会
- ③ 開発期間 平成25年（2017年）5月～平成29年（2017年）6月
- ④ 特徴 ポリエステル高機能繊維をベースに最先端技術で開発。



道後温泉三千年の歴史漂うまちづくり

女帝の湯プロジェクト（2009年～2010年）

女性天皇などの入湯の史実に基づく、「不老長寿」への祈願

★斉明、持統天皇等の女帝による道後入湯の目的を検証

湯帳での歴史的入湯スタイルへの挑戦

檀原考古学研究所 所長 菅谷文則 氏らの協力を得て

「古代女帝が愛した 道後温泉の再生に向けて」研究、討議

古代湯帳



1-2 守り続けているもの 温泉歴史文化

2 道後温泉本館全館営業再開 (2024年令和6年 7月11日)

【テーマ】 歴史を繋ぐ 未来に遺す道後温泉本館 ～100年先も輝き続けるために～

「道後温泉本館」は、公衆浴場で初めて
国の重要文化財に指定され
2024年4月 **130周年**を迎えた。
2019年（平成31）1月から
営業しながら保存修理工事に着手。
2024年（令和6）7月約5年半ぶりに
全館での営業を再開。



修理後の御成門（皇室専用浴室の玄関）



1-2 守り続けているもの 温泉歴史文化

3 道後温泉本館 保存修理工事中 “ならでは” の取り組み

①オリジナルアニメーション作品 「火の鳥“道後温泉編”」 プロジェクションマッピング

道後温泉本館を舞台に、オリジナルアニメーション作品 「火の鳥“道後温泉編”」 と連動し、時代を超えて行き来する「火の鳥」と、その時代を生きた人々の文化や歴史をメッセージで伝える



2021年8月31日終了 毎日18:30～ 21:30(15分毎)

道後温泉 × ネイキッド MESSAGE -火の鳥、到来-



1-2 守り続けているもの 温泉歴史文化

4 魅せる道後温泉本館保存修理工事の変遷

前期工事 (本館東側又新殿)



道後温泉本館
ラッピングアート

◆素屋根の大きさ
南北の長さ約34m
東西の長さ約19m
最頂部の高さ約20m

デザイン 大竹伸朗 氏



後期工事 (本館西側)



制作: ポニーキャニオン



監修: 手塚プロダクション



1-2 守り続けているもの 温泉歴史文化

5 見せる道後温泉本館保存修理工事 空の散歩道完成（冠山）



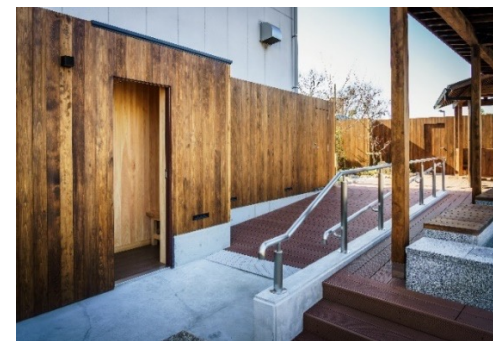
工事中 “ならでは” の取り組み 足湯に浸かり道後の風景を



源泉かけ流し



女性用
更衣室
も完備



I-3 道後ブランド

「最古にして最先端」

道後温泉 ×

(1) 道後オンセナート2014～の 取組み

本館改築120周年記念



道後オンセナート2018
【25組】



道後アート2019・20
【日比野克彦】

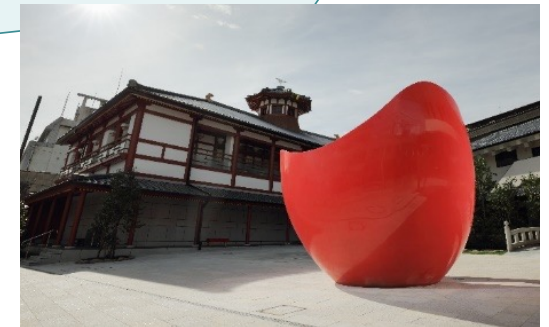


道後アート2015
【蜷川実花】

道後アート2016
【山口晃】

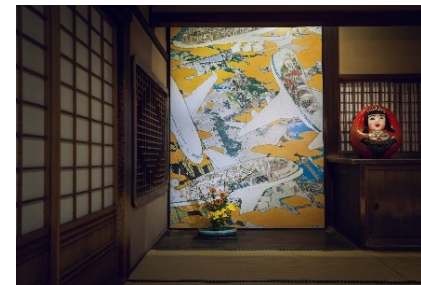
大巻伸嗣

ほか



道後オンセナート
2014【30組】

荻間彌生ほか



道後温泉 × アートの取り組み

2014年本館改築120周年を契機にアートの取組みを開始

『最古にして最先端』

■目的(2014~2018)

- ①新たな顧客とリピーターの創造
アートファン、20~30代の女性客
- ②ビジネスチャンスの創出
ホテルプロジェクト
- ③ブランディング
道後×アート

これまで

- 鑑賞中心のアートイベント
- 作品展示
- アートに触れ、楽しむ

道後アート2019・2020

- 参加型のプロジェクト
- 地域や観光客も参加
- アーティストと一緒に楽しむ

昼と夜の「まち巡り」ができる回遊性・滞在性を高める作品の配置

道後オンセアート2014

2014年4月10日
本館改築120周年
温泉×最先端のアート



道後アート2015



道後アート2016

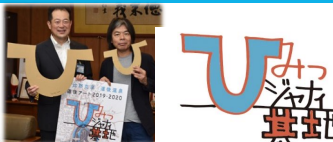


♥おんな一人旅に人気の温泉地ランキング
5年連続1位
(楽天トラベル)
♥温泉総選挙2016
1位
(環境省・観光庁関連)

道後オンセアート2018



日比野 克彦×道後温泉
道後アート2019・2020
『ひみつジャナイ基地
プロジェクト』



道後温泉本館
保存修理工事と
アート事業との
連動へ

(2) みんなの道後温泉活性化プロジェクト

(2021.5～

2024.3) 道後温泉本館保存修理工事中の活性化

いつ来ても楽しめる温泉地

道後温泉本館保存修理後期工事(2021～2024年)にあわせ、
令和3～5年度までの3年間「本館」「上人坂」を中心に地域全体で実施

- ・回遊性、滞在性を高め
新しいファンを獲得
- ・持続可能なまちづくり

道後アート2019・2020

【日比野克彦】

新しい
活性化策

道後オンセナート2018

【大巻伸嗣等25組】

2021年度(R3)
地熱づくり
地元集客/
関係人口の構築

2022年度(R4)
道後オンセナート
2022
蜷川実花・大竹伸朗
観光人口の拡大

道後アート2016

【山口晃】

道後アート2015

【蜷川実花】

観光資源化事業
(道後REBORNプロジェクト) 火の鳥



又新殿・霊の湯棟(工事前)



2023年度(R5)
アート & クラフト事業

【主催】 未来へつなぐ
道後まちづくり
実行委員会

道後オンセナート2014

【草間彌生等30組】

本館改築120周年記念

I-3 道後ブランド

「最古にして最先端」

道後温泉 ×

みんなの道後温泉活性化プロジェクト

100年先も輝き続ける道後温泉を目指す

【道後温泉別館 飛鳥乃湯泉】

蜷川実花（写真家・映画監督）氏
による 中庭インスタレーション



飛鳥乃湯泉 ハダカヒロバ

230 点の
花の写真が
広場を彩り
2種類の
提灯で装飾

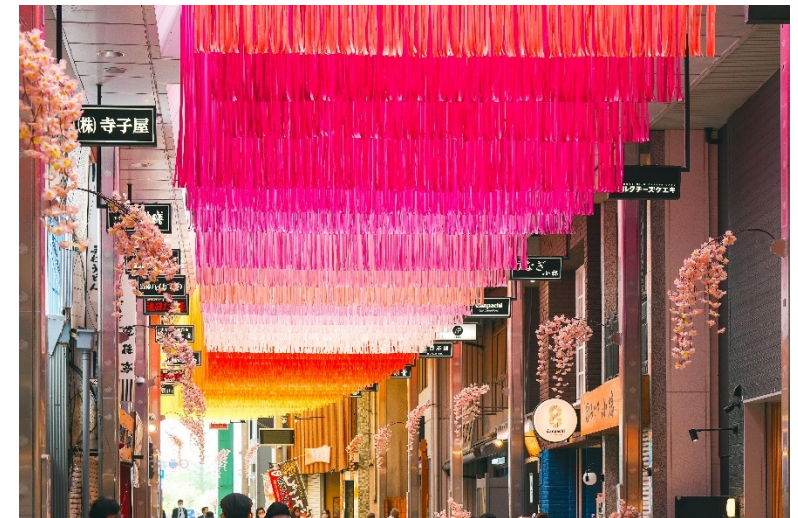
新しい芸術祭 「道後アート2023」

【期間】 2024年7月まで

【場所】 道後温泉地区

【テーマ】 アート&クラフト

建築家／アーティスト
エマニュエル・ムホー氏



100 colors no.42

I-3 道後ブランド 「最古にして最先端」 道後温泉×アート

道後オンセナート2022～23

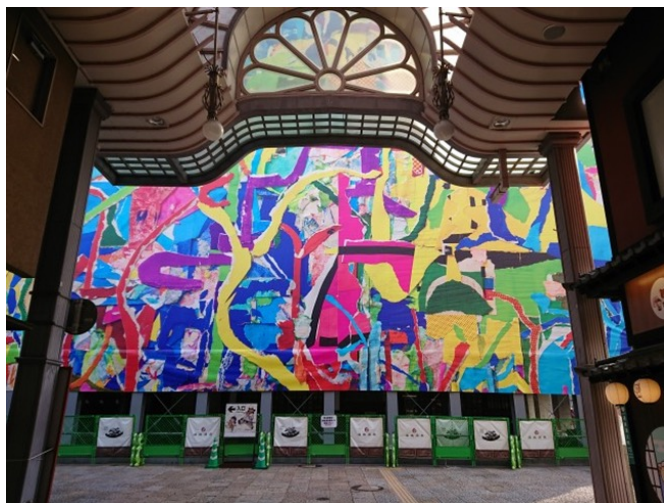
大竹伸朗 氏 「熱景」



東側
又新殿
入り口



南側
空の散歩道
から



西側
商店街
入り口
から



南側
県道から

I-3 道後ブランド 「最古にして最先端」 道後温泉 × アート

「蜷川実花 with EiM × 道後温泉 DOGO ART」を開催

【期日】 令和7年10月10日～ 令和9年2月28日 【主催】 道後アート実行委員会



I-3 道後ブランド 「最古にして最先端」 道後温泉 × アート

蜷川実花
Produce
with
EiM

道後温泉本館
プロジェクション
マッピング

4月21日～
8月31
日

19時半～21時半
(30分毎5分間)



Ⅱ 時代やニーズの変化への対応

成功事例 と失敗事例



Ⅱ 道後温泉の 時代やニーズの変化 への対応

1 旅行・地域・受け入れ施設の変化

- ① 旅行形態の変化 ⇒ 個人化 若年層・ビジネス客・教育旅行・卒業旅行 の増加
- ② 定員稼働率の減少 ⇒ 4名代/室から2名代/室へ 一人旅の増加
- ③ 女性客の増加 ⇒ 女性一人旅人気温泉地 道後温泉開運巡り の成果
- ④ 各旅館ホテルの小規模化、高級化、個性化、泊食分離の増加、定休日・休館日導入増加、企業化
- ⑤ 高面的付加価値化 国際化 生産性向上 SDGs・DX・GX BCP マインドフルネス

(1) 旅館ホテルと地域の 『売上げ の 数式』 $\text{売上} = \text{商品力（品質と価格価値）} \times \text{販売力}$
”選ばれる” ”稼げる” 旅館・地域になるための自助努力（観光地の満足度が旅館の満足度に加算）

(2) 地域再生・観光振興のための方向性

- ① 街に対する **誇り** と **危機感** の共有 ⇒ 現状把握と将来ビジョンの策定
- ② 地域の魅力の再構築 ⇒ 地域経営の視点から 産地金官学 一体となった観光資源の磨き上げ
- ③ 観光地の面的な再生・**高付加価値化** の推進 経済の維持と雇用確保を協働で取組む



地域主体で考える道後温泉誇れるまちづくり推進協議会 × 産金官学協働

Ⅱ 道後温泉の 時代やニーズの変化 への対応

1 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会の概要

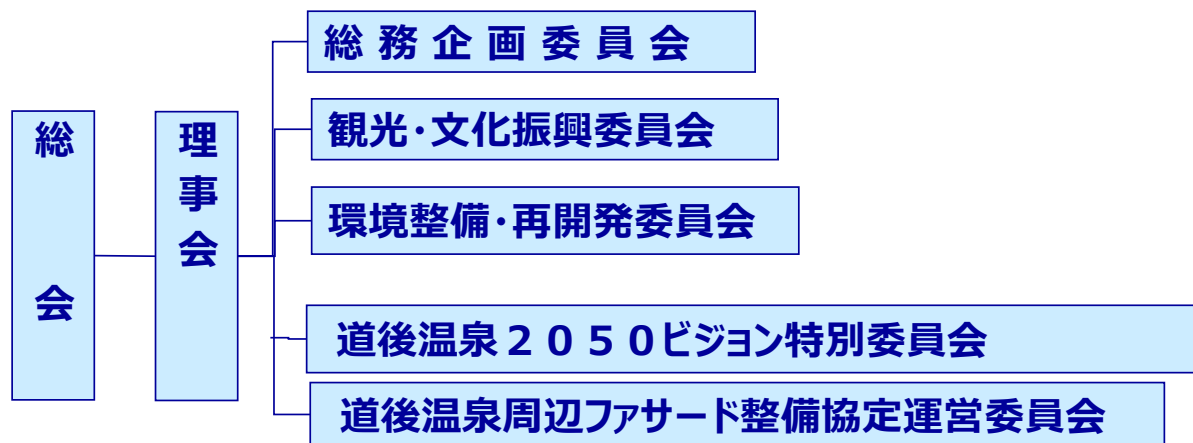
●道後温泉誇れるまちづくり推進協議会（平成4年 1992年 8月28日設立）

特別会員35 正会員85（別途 旅館30 + 商店街63組合員）計213会員（令和8年6月時点）

地域住民や松山市民の会員を含む“広範囲” 且つ “ゆるやかな” 会

【背景】 バブル崩壊後、逸早く従来の団体型、歓楽型温泉地から脱却し、旅行の個人化を見据え
様々な視点から地域を改めて見つめ直し、将来ビジョンを描く必要性に迫られていた。

【2026年度】
組織図



年会費1万円 両組合から計100万 行政補助無し 令和8年度事業費324万円 開運巡り特別会計 約1,059万円

日本銀行松山支店 (株)日本政策投資銀行 地元金融機関3行 市内企業 愛媛大学 松山大学 子規記念博物館 交通運輸機関
道後郵便局 公民館 10町内会 自治会連絡協議会 道後地区社会福祉協議会 道後水利組合
高齢者クラブ連合会 生児童委員協議会 道後中学校PTA 道後・湯築小学校PTA 松山東交通安全協会 ほか

Ⅱ 道後温泉の 時代やニーズの変化 への対応

2 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会の活動実績 (主に景観分野関連)

平成	04.08(1992)	道後温泉誇れるまちづくり推進協議会 発足
	06.03(1994)	第1次 道後グランドデザイン 策定 「クラシックスパ道後」
	13.10(2001)	坊っちゃん列車運行開始 12月 足湯 旅館施設初完成 (以後順次完成)
	14.06(2002)	第2次道後グランドデザイン21 発表「DO! GO! 21〜クラシック&モダン・道後をめざして〜」
	18.06(2006)	道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言 『道後百年の景』採択 ガイドライン策定
	19.03(2007)	道後温泉本館周辺整備(道路付替え、東屋ほか) 完成
	21.03(2009)	道後温泉周辺ファサード整備事業 完了 (約8割 39/48件)
	23.10 (2011)	温泉街県道の 一方通行一部解除
	24.03(2012)	第3の外湯プロジェクト第2次案 市へ提言 【23.06(2011) 第1次原案 策定】
	25.01(2013)	道後温泉駅〜旅館街主要部の県道沿線 電線類の地中化完了
	25.07	道後温泉開運巡りプロジェクト始動
	26.04(2014)	道後オンセナート2014開幕
	28.10 (2016)	アジア都市景観賞受賞(中国銀川市にて) 主催:国連HABITAT
	29.09(2017)	道後温泉別館 飛鳥乃湯泉 9月新築オープン 12月グランドオープン
令和	04.03(2022)	上人坂 坂下広場完成 上人坂テラス、上人坂ハナレ 稼働
	05.01 (2023)	道後温泉の記憶と記録を未来に繋げる事業
	06.03 (2024)	道後温泉2050ビジョン策定 (国交省 官民連携都市再生推進事業)
	06.04	道後温泉本館改築130周年
	06.07	道後温泉本館 全館通常営業再開 (5年半の工事)
	07.01	観光経済新聞社主催日本の温泉100選に道後が初の2位に まち協も特別賞受賞
	08.01	観光経済新聞社主催日本の温泉100選に道後が3位に

Ⅱ 道後温泉の 時代やニーズの変化 への対応

3 観光まちづくりのための空間整備戦略（共通認識）

歴史漂う景観まちづくり 道後百年の”景”の取組み

21世紀の観光・・・景観をはじめ街の魅力で競う地域間競争の時代。
価値ある文化的・空間的資源なくして地域の活性化は望めない。

美しく文化的に豊かなまちの環境が人々の感性を磨き、おもてなしの心を育て、
観光地としての心地よい時間と空間を創造、発信していく土壌になる。

街の生活文化の高さや魅力が、市場価値を高め、観光産業、交流文化産業の発展の母体となる。

地域住民が誇りを持てる 美しく魅力的で活力のある都市型温泉郷空間の
実現を目指し、 本物を生かした歴史漂う景観づくりを進める。

道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言「道後百年の“景”」の 着実な実現

まちづくり は「道徳」「説得」「納得」!!!

Ⅱ 道後温泉の 時代やニーズの変化 への対応

4 道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言 「道後百年の“景”」 採択

H18.06(2006)

道後温泉 歴史漂う景観まちづくり宣言 ①②③④



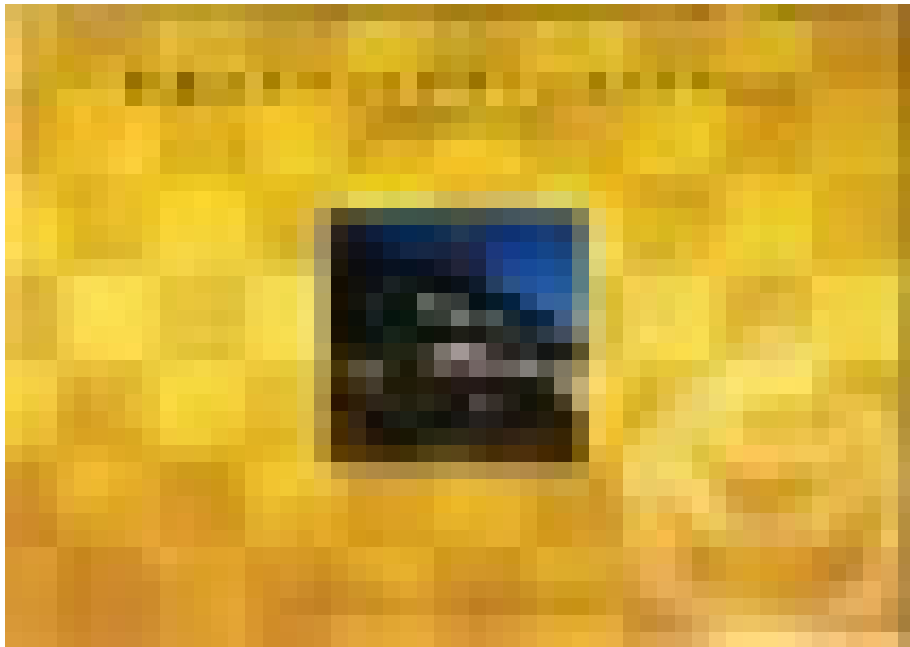
- ① 私たち、道後温泉地域の住民、事業者、NPO等の関係者は、自らを景観形成の主体と認識し、市民並びに行政の理解と協力のもとに地域一丸となり、三千年にわたる日本最古の温泉地としての風格を思い起こし、百年後においても誇れる「歴史漂う道後温泉景観」の実現に努めます。
- ② 私たちは、国際観光温泉文化都市・松山における道後温泉の将来像を「クラシック&モダン・道後」とする合意のもと、伝統ある温泉地であることを再認識し、先人の知恵に学び、知恵を活かし、湯の街情緒豊かで賑わいのある文化的空間、歴史と新しさが融合した景観を持つ美しい町並みの形成に努めます。
- ③ 私たちは、まちの景観は公共のものであることを理解し、道後に居住する者並びに事業を営む者の自覚と責任において、「日常の人の営みを魅力化」することが「人の心を動かす魅力的な景観づくり」であることを常に意識し、まちづくりの原点である個人の美しい行動と美しい事業活動に努めます。
- ④ 私たちは、道後温泉の景観に、深い歴史性を表現するための象徴及び景観保全の核として、古代から今日にわたり 各時代で愛されてきた温泉施設の復元に取り組み、温泉と浪漫に浸り、道後そのものが体感でき、湯巡りも楽しめる「道後ブランド」を次代に継承発展させる景観づくりを進めます。

Ⅱ 道後温泉の 時代やニーズの変化 への対応

5 ファサード整備計画 （景観まちづくりデザインガイドラインに基づき対応）

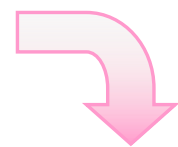
松山市の指導の下 作成

H18(2006年) 9月～ 現在も運用中



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

6 道後百年の”景” 道後温泉周辺ファサード整備 事例（抄） ①



(1) 道後温泉 旧西側玄関前
商店街 本館前入り口



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

6 道後百年の”景” ファサード整備 事例（抄） ②

▲ 整備前



（２）道後温泉駅前



- ・ 壁面広告物の縮小移転
- ・ 壁面の塗替え
- ・ バス停広告物の撤去
- ・ コンビニ広告物の意匠変更

整備後



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

6 道後百年の”景”

屋外広告物の自主撤去 事例（抄）

①

（1）愛媛銀行道後支店 屋上広告



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

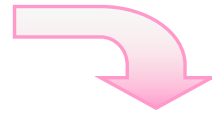
6 道後百年の”景”

屋外広告物の自主撤去（事例 抄）

②

（２）商店街の中にあった
パチンコ店の 屋上

広告



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

6 道後百年の”景”

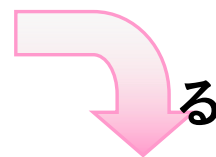
屋外広告物の自主撤去 事例（抄）

②



（２）パチンコ店 屋上広告

道後温泉本館前広場から見



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

5 道後百年の”景” 歩行者優先空間の創出 (抄)

以前大型車両
は 一方通行

商店街入口

駅前方面



白鷺坂

道後温泉本館周辺平面図

平成19年(2007年)

県道と市道の道路付替え工事完了

東屋

(40台)

冠山駐車場 坂道

冠山駐車場料金

冠山駐車場付替階段

仮設階段

凡例

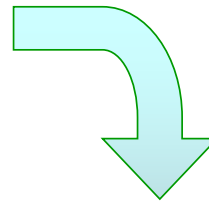
●	照明灯(歩道用)
●	照明灯(車道用)
●	車止め
■	フットライト

Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

6 道後百年の”景”

歩行者優先空間の創出 事例（抄）

（1） 道後温泉本館周辺 整備前後



〔道後温泉本館西側 を 北側から見る〕



- ・ 歩行者広場となり、客待ちタクシーなどの排除
- ・ コミュニティ広場の出現

Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

5 道後百年の”景”

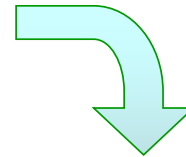
歩行者優先空間の創出 事例



道後温泉本館西側 を 広場化

玄関先から商店街アーケードに向かう横断歩道の廃止
コミュニティ広場の出現

(1) 道後温泉本館周辺 整備前後 本館前～商店街東口



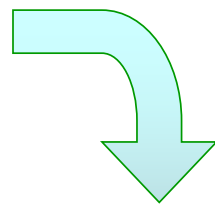
Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

6 道後百年の”景”

歩行者優先空間の創出 事例（抄）



道後温泉本館南側 分湯場・公衆トイレ（移設）



（２） 道後温泉本館周辺 整備前後
冠山駐車場 入り口

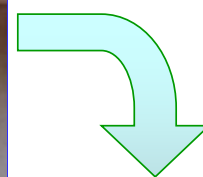


Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

6 道後百年の”景” 歩行者優先空間の創出 事例（抄）



道後温泉本館 又新殿 東側道路 南側から
以前は 幅員 約 4 m の普通車 一方通行



(3) 道後温泉本館周辺 整備前後
又新殿 ～ 東屋

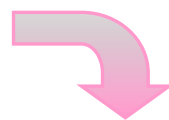


Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

6 道後百年の”景”

歩行者優先空間の創出 事例（抄）

（４） 湯神社・空の散歩道から又新殿



本館南側の分湯場、公衆トイレを撤去移設

公共工事の最大効果：安全確保、空間整備、賑い創出、経済波及効果

Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

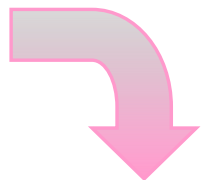
6 道後百年の”景”

歩行者優先空間の創出 事例（抄）

（５） 道後温泉駅周辺整備 （歩行者空間の整備）



交通規制により自動車の流入を
抑制するとともに、
歩行空間の創出により安全な回遊動線を確保



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

6 道後百年の”景”

電線類の地中化

(2013年H25.5完了)



道後温泉本館・又新殿を 東側 から 見る

県と松山市と四国電力の連携

道後温泉本館・又新殿を北側から 見る
(県道 六軒家石手線)



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

7 耐震改修促進法・事業再構築に基づく 旅館・ホテルの建替えなど民間投資 建物のセットバックや植栽

個人化 高度化し、様々なお客様に対応できるよう個性化、多様

化



宝荘ホテル 道後御湯 2018年5月



八千代 2018年8月



古湧園「遥」 2019年10月



琴の庭 2020年4月



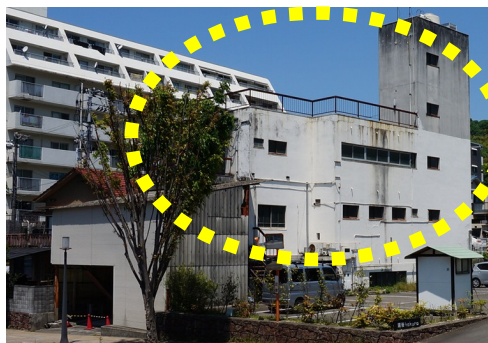
道後hakuro 2020年7月



葉隠れ 2023年2月

Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

8 旅館ホテル及び商店街による地域一体となった高付加価値化事業 施設改修で高度化 廃屋撤去と観光施設新設で街並み保全



サイクルベース新設備
(高単価レンタサイクル
ベースの新設 2023年度)

隣に106席のグルメ寿司店開
業

昼食・夕食箇所不足に対応

【民間投資】

6 軒の建替え 新築工事
(2017～2023)
総事業費： 約 110 億円余

+

累計約40施設の3期4年で地域の面的
高付加価値工事 (2021～2024)
総事業費： 約 25 億円

【公共投資】

+

道後文京地区都市再生整備計画
2015～2019総事業費： 約50億円
内 飛鳥乃湯泉 25 億円

=

官民建築投資額計 (国庫補助除く)
約160 億円以上

地域の発展は 投資なくして成長なし！！！！

Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

9 道後温泉地域の 未解決景観

① “良いまち”になるほどマンションが出来る
景観と居住性、経済合理性との調整



道後商店街来店者等の
違法駐輪（本館手前）



② 区域指定以外の看板（屋外広告物）等の問題
2か所の道後の玄関口のあまりの格差！！

風俗街エリア周辺地区
（温泉街西側地区）



Ⅲ 今後の地域ビジョン

道後温泉2050ビジョンの策定と
実現に向けて

Ⅲ 道後温泉2050ビジョンの策定から実現へ

1 道後温泉2050ビジョンの策定（国交省 官民連携まちなか推進事業）

（1）未来ビジョンの策定（2024年3月発表）

これまでの景観整備と最先端アートのまちづくりを総括し、一層加速する人口減少高齢社会、新たな環境変化（DX・GX・SDGs・技術革新等）を見据える。道後温泉の歴史を次代に繋ぐため、地域自らが未来ビジョンを策定。
『日本最古の温泉地』に新しい価値を提供し続けていく。

（2）2050年に向けて道後温泉が目指す姿【ブランディングとターゲット設定】

激変する旅行形態や国際化などに対応し、『日本最古の温泉地』ということをより深化させる。敢えて「温泉に入らなくても持続可能な温泉地」という視座からも国内外の方が、より多様に道後温泉地域を満喫できる「デジタル温泉都市」の構築に取り組む。道後温泉の原点に立ち戻り、「世界に開かれた日本の温泉文化を体現するまち 道後」を目指す。

（3）目標設定

- ① 道後温泉宿泊人数 80万人
- ② インバウンド比率 50%（内アジア圏66% 欧米豪ほか34%）

現在の10%から、敢えて50%に設定。まちのカタチを構想しバックキャストする。

（未来の目標を逆算して、現在から必要な解決策やシナリオを設定。）

Ⅲ 道後温泉2050ビジョンの策定から実現へ

1 道後温泉2050ビジョン(2024年3月策定) 実現に向けて

目標：宿泊人数80万人 インバウンド比率50% テーマ：温泉×歴史・アート×健康×デジタル

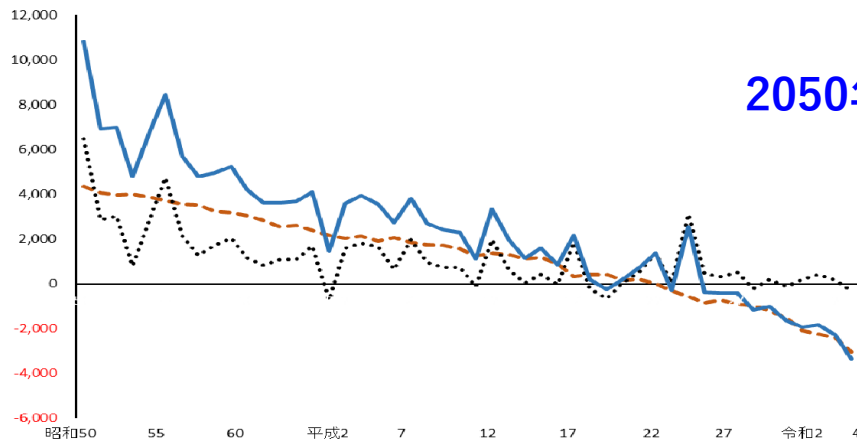
- ① デジタル温泉都市構想の実現（観光DXによる最古にして最先端の街づくり）
- ② 道後温泉歴史ミュージアムの整備（道後温泉駅前 i 案内所の建替え）
- ③ 第4の外湯「道後斎戒沐浴（さいかいもくよく）の湯」の建設
- ④ 温泉浴と森林浴のマリアージュ（道後公園湯築城跡の活用による現代湯治）
- ⑤ 道後温泉歴史文化コリドール（回廊）の整備
（歩いて過ごせる街の整備、自動運転の活用、歴史文化アート資源ネットワークの再構築）
- ⑥ 道後里山づくりと「マインドフルネスの地」構想とネイチャーツーリズムの推進
（里山づくり、柑橘類のオーナー制度 桜・桜等広葉樹の植樹運動 竹林再整備と竹炭生産）
- ⑦ 災害に強い温泉地づくり「道後温泉BCP & 発災時宿泊者対応計画の改定」
- ⑧ SDGs・ゼロカーボン温泉地プロジェクトの推進
- ⑨ 道後温泉の観光まちづくり人材の育成 & 2拠点居住地づくりの促進
- ⑩ 持続可能な温泉地づくりのための財源確保と強化

道後温泉2050ビジョン重点プロジェクト ① デジタル温泉都市構想の実現

① 道後温泉「デジタル温泉都市」構想

構想の目的 激変する社会経済環境に対応し DXを推進することで道後温泉の持続的な発展を目指す。

- i **お客様の満足度向上** 様々なサービスのデジタル化を通じ、来訪者の利便性と満足度向上によりロイヤルカスタマーを育て地域全体の持続可能な発展につなげる。
- ii **価値向上・単価Up** 自館や地域全体の宿泊予約データをタイムリーに把握し精度の高いマーケティングや効果的な情報の提供・共有を行い**各施設の単価 Up** や **地域全体の収益性向上**を図る。
- iii **生産性向上/コスト削減** デジタルツール導入で**業務効率化**や従業員の負担を減らし**生産性を向上**本来業務に集中する余裕が生まれ、顧客満足度と従業員満足度を改善。



道後温泉2050ビジョン重点プロジェクト ① デジタル温泉都市構想の実現

デジタル温泉都市 基本構想 ～道後温泉スマートツーリズムを実現～

- ✓ スマート化は、旅行客レベル、事業レベル、観光地レベルの3つの階層の視点を取り入れる
- ✓ 3階層それぞれで、データを取得し、交換、処理・分析を行う



デジタル化により取得できるデータ活用による観光DX (最重要)

データ収集・分析・結果を利活

統計データ (雇用含む)

宿泊データ・PMS (予約・販売)

観光施設 入場・体験データ

飲食店データ

交通事業者デジタル

人流データ

来訪者・地域を
知ることができる

道後・松山
観光データ基盤
(DMP)

可視化・分析

- ・いつ、どこから、どんな人が来ているのかが、分かる
- ・消費行動が分かる。
- ・人の流れが分かる。
- ・混雑状況が分かる。
- ・他の地域との比較ができる。
- ・来訪者が何を求めているか分析

DX化

来訪者の需要予測可能

- ・最適な人員配置
(省人・省力化・人手不足

解消)

- ・仕入れ・仕込みに活用
(ロスをなくす)
- ・オーバーツーリズム対策
- ・データに基づく
観光戦略マーケティング
- ・スマート観光地化 等々

- 来訪者の利便性と満足度の向上
- 観光事業者の生産性向上
- 観光地経営の高度化

最後は人の力 『ヒューマンタッチ』

AIでは出来ない旅行者へのおもてなしに、人の力を注ぐ

Ⅲ 重点プロジェクト ② 「道後温泉歴史ミュージアム」の整備

「道後温泉歴史ミュージアム」の建設（道後温泉駅前 道後観光会館 i 案内所の建替え）

- ① 目的 ”日本最古の温泉“を表現し、の根拠となる文献や資料などを展示、学習する場所を設ける。
観光案内所の強化を超えて、**インバウンド対応の拠点**とするとともに、
歴史やストーリーの全体像をわかりやすく見せるための展示をデジタルも活用し展開。
道後温泉の歴史に学術的に触れることのできる**ミュージアム機能**を新たに付与する。
兎月庵松山文化歴史館などと連携し、現在の道後がどのように組み立てられてきたか、
どのように歴史・文化・人々の営みを継承してきたのか、それを物語として伝える。
満足度や滞在時間延長(ストーリーに沿った過ごし方体験等)につなげる。
今回の保存修理工事に関する変遷を体系的にその歴史的事実を 表現する場所とし、
ビジターセンターとしての機能も果たす。

- ② 運営 公設・指定管理（事務所入居者やホール利用者は賃料を支払う）

- ③ 施設・展示構成（**実物やパネル、デジタル映像類を活用**）

- | | | |
|---|---|---|
| ・ 古文書／各種図書類
（古事記、日本書紀
伊予風土記逸文
法隆寺財産目録） | ・ 各時代の外湯地図
・ 入浴木札
・ 道後温泉各時代の外湯
（絵図、写真） | ・ 道後の歴史漂う景観まちづくり「道後百年の景」に
基づく景観整備の前後の写真やパネル
・ 道後温泉本館保存修理工事記録集
・ 記憶と記録を未来に繋げる事業で収集した写真、映像 |
|---|---|---|

Ⅲ 重点プロジェクト ③第4の外湯 「道後斎戒（さいかい）沐浴の湯」 整備

歴史的温泉施設群 第4の外湯「道後斎戒沐浴の湯」建築

【歴史的空間整備の必要性】

「道後温泉本館」や「飛鳥乃湯泉」「椿の湯」と連携し、日本最古の温泉をさらに印象付けるため、**第四の外湯**として齊明天皇来浴の史実に基づいた**新しいスタイルの外湯**を上人坂再生と連動し建築する。

【復元したいテーマ】

斎戒とは湯治的な要素も含め、浴衣を帯びて湯水で髪や体を洗い心の内なるもの清め去ること。
宝厳寺がある奥谷での**齊明天皇斎戒沐浴**の史実を復元体験する。
温泉の湯舟入浴以外にもプライベートな空間で道後の歴史文化を体感。

今後増加する**欧米エリアのお客様をターゲット**。

- 場所 道後奥谷 宝厳寺門前
ひみつジャナイ基地周辺（砂防地域外）
- 規模 沐浴ブース・更衣室 男女各5 ラウンジ
- 運営 公設・指定管理
料金 20分 2,000円以上



道後湯帳



イメージイラスト

Ⅲ 重点プロジェクト④ 「温泉浴と森林浴のマリアージュ」 構想

1 森林浴 道後公園湯築城跡 活用による現代湯治プログラム

【目標】 温泉街の後背地の山林とエントランスの道後公園湯築城跡を活用。
「**身体**のケア中心の温泉浴」 + 「**心**のケア中心の森林浴」 を繋げ
空間的広がりや多様性、身体と心のケアが同時にできる温泉地を目指す。
まさに温泉浴と森林浴のマリアージュで、道後温泉の新しい体験価値を作る。

温泉効果の3つの「養」： ①休養 ②保養 ③療養 を取り入れるとともに
森林環境が人の「五感」を通して自律神経系に刺激を与え心身を癒す。

【課題】 将来に美しい自然景観を残すため、国史跡に影響を与えないような形で
桜などの植樹運動を協議会上げて働きかけていく。
盛り土の活用や指定区域の縮小を働きかけ以前の桜の名所を復活させる。



2 「道後温泉 イマドキの湯治の旅」 との連携

「温泉入浴指導員」と「健康指導士」資格者を各旅館で養成。
温泉を利用した効果的な入浴方法や基礎知識を学んだ者が、お客様へ最適な入浴プログラムをご提案。

滞在型の湯治の過ごし方として、温泉浴と森林浴がより
相乗効果を生み出す **イマドキの湯治の旅** を商品化する。



Ⅲ 重点プロジェクト⑤ 道後温泉歴史文化コリドール（回廊）の整備

1 目的別・多重的 歴史文化回廊 の整備

- ① 日本の歴史や文化、アート・クラフト等、女性や外国人も興味を持てるコンテンツを集約して発信
デジタルデバイスを用い、多言語で予約も決済も街歩きもできる仕組みを構築。

A：道後温泉開運巡りの 拡充

B：芸術文化ルートの整備

C：寺社仏閣参拝・参詣ルートの整備

D：道後村巡りの整備

E：道後歩きお遍路の道の整備



- ② 本物のストーリー探訪ルートの整備

る)【例】子規・漱石の道後散策 を辿る

≪明治28年10月6日 子規遺稿 『散策集』≫

(史実や物語で描かれていた場所を辿



- ③ 道後16谷 の探訪（鷺谷、桜谷、湯月谷・
道後八勝八景

2 ”回廊“及び域内の環境整備と移動手段の高度化

- ① 域内自動運転車の導入
② ”回廊“域内自動音声ガイドの導入
③ フリンジパーキングの導入
④ 風俗街の看板問題対策



Ⅲ 重点プロジェクト ⑥道後里山づくりと「マインドフルネスの地」構想

1 道後里山づくり

【対策】 道後周辺の農地、園地、竹林や山林を活用し、道後の里山の再生を手掛ける。
竹林再整備と竹炭生産などの体験、柑橘類のオーナー制度導入や桜・桜・楓など落葉樹の植樹を行う。
桜の花見、紅葉狩りなど風情を創出し、各旅館で出される残食をたい肥として土づくりに貢献する。

【効果】 里山の雑木林は、自然環境学習、水源涵養・水質浄化、土砂流出・崩壊防止、野生生物の生息、大気浄化、緩衝緑地、想像力涵養の場、レクリエーション、リフレッシュ、交流の場として有効に機能する。
「多様な人と森との営みの世界」を体感できる場として再生を図る。

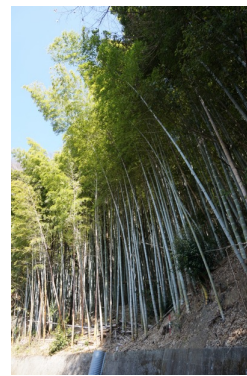
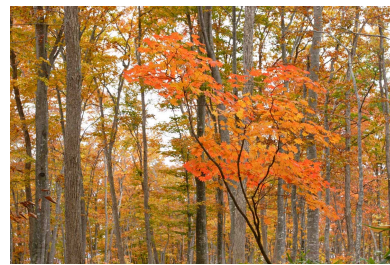
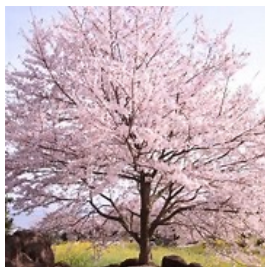
2 「道後マインドフルネスの地」構想

“マインドフルネス”とは、古代の仏教より伝わる伝統的なメソッドから宗教的な要素を除いた瞑想のこと。
日本の温泉文化の歴史を紡いできた道後温泉が「マインドフル温泉」として、これからの時代の
癒しと学びと交流の場となることを目指す。

マインドフルネス瞑想は「今、ここ」の状態にマインドフル＝満たされる状態を求めるもので3ステップで実施。

①良い姿勢で坐る ②自分の呼吸に意識を置く ③感情や思考が浮かんでも、それを追わず呼吸に戻る。

豊かな歴史文化を育んできた道後温泉では、温泉とマインドフルネスは極めて親和性がある。



IV 道後温泉の広報戦略

誘客に繋がる情報発信について



IV 道後温泉の広報戦略

1 新しい観光まちづくり と 持続可能な 稼げる地域への転換策

地域自らが来訪者を創造する新しい観光まちづくり

- ① 「そこに何があるか」でなく「そこで何をするか 時間と空間をどう楽しむか」
体験価値・実感価値を高め 唯一無二の体験を提供
量より質の 一人一人の個人に寄り添った 高付加価値化観光へ とシフト
- ② 発地主導型から地域主導型観光への転換 稼げる地域へ
Product Out と Market In の双方の視点 ～「選ばれる地域」になる～
アプローチすべき市場と磨くべき地域の強み の両者を同時に考える
- ③ 裾野の広い観光産業の特性を生かした関連産業との連携強化
地域住民・事業者・旅行者が協力して価値を創出する 共創型観光
- ④ 観光行動のデータ分析による戦略的マーケティングと情報発信
- ⑤ どう結果を出したかを問う成長に向けたPDCAサイクル
地域への経済波及効果、雇用実績など波及効果を正確に検証 施策に反映

(ビジネスモデルと意識の転換)

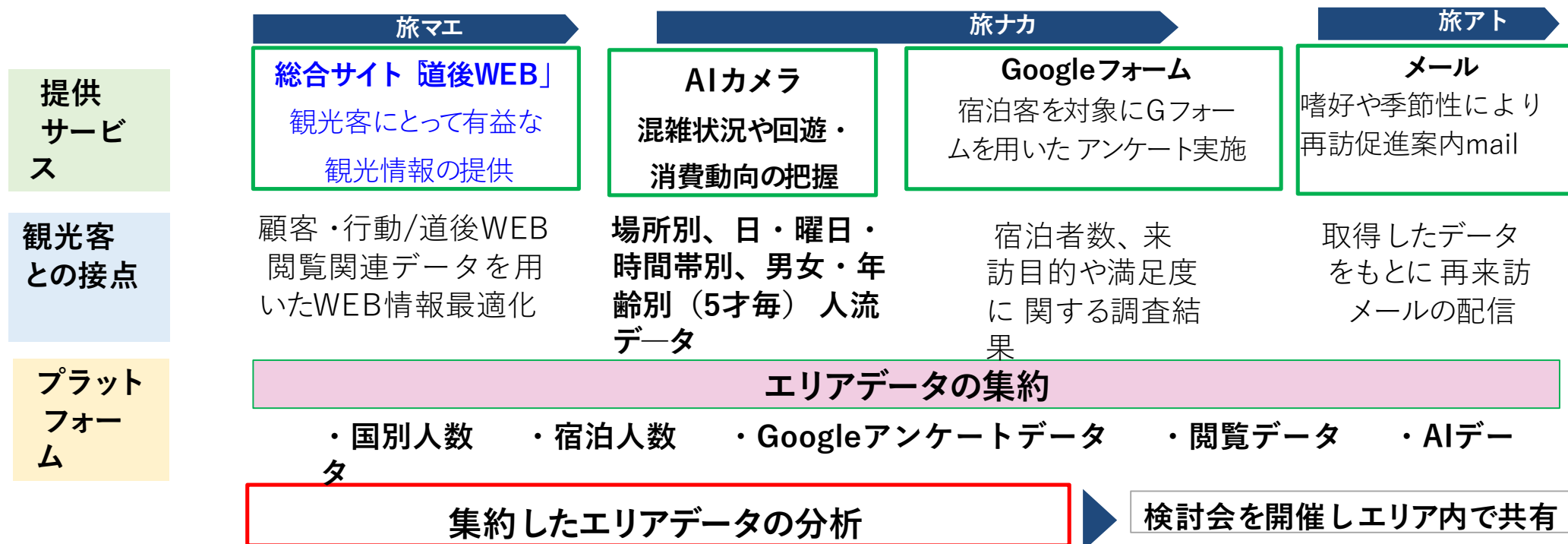
B to B、B to C ⇒ D to B、D to C

D = Destination 目的地となる

IV 道後温泉の広報戦略

松山市道後温泉エリア 面的DX化計画

- ① 域内の宿泊・観光情報を網羅的にまとめたウェブサイト「**道後温泉公式エリアガイド**」を開設し旅マエ・旅ナカ の各フェーズにおいて、来訪者の滞在 価値を向上する情報提供を行う。
- ② **AIカメラシステムの導入**やGoogleフォーム等を活用した満足度や認知度を測定するための来訪理由等の調査の実施により、既存データを補完した一元化データと、その利活用体制を強化し連泊客やリピート客を醸成していくために必要な施策等が検討・設計できる体制を整備する。



V 道後温泉のインバウンド戦略

考え方や現状の取り組み
今後の対応方針について

V 道後温泉 の インバウンドの状況

1 道後温泉旅館協同組合 宿泊者数の推移

2026. 7

年度	館数	部屋数	収容人数	宿泊者数	備 考
2025 令7	32	1,452	5,084	824,819 (外客105,439)	2024年度比 105.5% 外客比率 12.8% 対2019年度比 112.8%
	和室 693 洋室 511 和洋室 248				
2024 令6	32	1,452	5,084	782,096	2024年4月本館改築130周年 7月本館全館営業再開 対2023年度比 101.4% 対2019年度比 107.0%
2023 令5	32	1,452	5,084	771,568	
2022 令4	32	1,450	5,194	761,914	2019年度比 104.2% コロナ禍からの V字回復
2021 令3	34	1,389	5,438	434,442	2019年度比 59.4%
2020 令2	34	1,389	5,438	413,689	2019年度比 56.6% 5月は対前年度 -98%
2019 令元	34	1,414	5,234	731,258	年度末から コロナ禍
2018 平30	35	1,344	5,044	781,997	耐震建替 順次着手 完成 ~2020年

2 訪日インバウンド比率の推移

年度	宿泊総数	外客割合	台湾	韓国	香港	中国	北米	欧州	豪州	その他
2025年度	105,439人	12.8%	50.8	23.4	6.3	4.9	4.7	4.8	1.6	3.6
2024年度	93,206人	11.9%	50.8	22.5	8.0	6.1	3.9	3.7	1.3	3.7
2023年度	55,007人	7.1%	48.5	19.5	10.6	5.3	4.9	4.7	1.5	5.0

※海外路線の拡充 台北 週3便 ソウル 毎日2便 釜山 毎日1便 上海便運休

V 道後温泉 の インバウンドの状況

道後温泉のインバウンド戦略

① 多言語化の高度化”

文化体験の多言語化 道後温泉の歴史・神話・建築のストーリーテリング
「温泉作法ガイド」→「理解できる」から「体験が深まる」多言語化へ。

② 高付加価値体験コンテンツの造成

温泉 × 伝統文化湯上がり茶会（英語解説） 道後の芸妓文化体験温泉 × 歴史
温泉 × サイクリングしまなみ海道とセットの「温泉リカバリー・ツアー」
温泉 × 酒蔵ツーリズム
道後～内子・大洲の酒蔵を巡るツアー（→“体験の質”がインバウンド単価を決める。

③ ナイトタイムエコノミーの強化

湯上がりバー（地酒・クラフトビール） 夜の温泉街アート（ライトアップ × ストーリー）
夜のガイドツアー（本館・商店街の歴史案内）→“夜にすることがある温泉街”で滞在日数増。

④ 安全・安心の国際標準化

多言語避難マニュアルAED・救護案内の多言語化 地域一体型BCP取得済み
災害時の宿泊者受け入れ協定策定済
“安全な温泉街”づくり

⑤ データ活用（観光DX）

行政との協働で国籍別の滞在行动データ回遊ルート分析（デジタルマップと連動）データ活用
予約経路（OTA・SNS）の最適化
口コミ分析（Google・TripAdvisor）→“感覚ではなくデータで意思決定する温泉街”へ。

VI その他特徴的な取り組み



VI その他の取組み ～ 歴史漂う景観まちづくり

1 道後温泉開運巡り

- ① 開運や恋愛をテーマに伝統と歴史文化を紡ぐ
新・開運アイテム 続々登場！

円満寺：俳句恋みくじ・お結び玉・えまたま・特大寒托
飛鳥乃湯泉 湯玉石・お湯かけ祈願
湯神社：湯真珠守り
宝蔵寺：もういっぺん 捨莉紙
第4分湯場：神の湯bottle



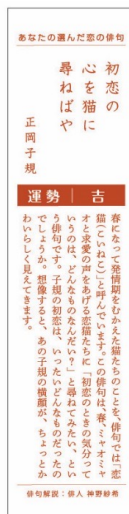
特製開運めくりマップ

インスタ映え

全館ベスト10入り！



円満寺
湯の大地蔵尊
(行基作)



病氣平癒
良縁祈願
商売繁盛



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

7-② お茶屋 華ひめ楼 オープン

日本の伝統芸能、お座敷文化体験

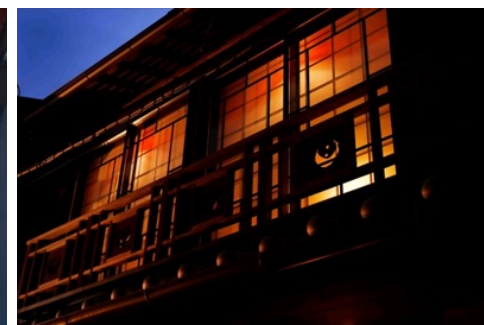
道後温泉に新しい魅力を創る

テーマは「道後の粹とおもてなし」



日本の伝統芸能、お座敷文化を体験できる、
道後唯一のお茶屋「華ひめ楼」が2020年に誕生！
道後の賑わいを創出し、地域の魅力向上と経済の活性化
を目指すため、本館近くの路地にある古民家を改修。

お座付き（日本舞踊や長唄、三味線等）、
お座敷遊び等「大人の贅沢な遊び」を体験



Ⅱ 道後温泉の時代やニーズの変化への対応 ～ 歴史漂う景観まちづくり

宇和島グルメ寿司 すしえもん
け！
温泉街の一角に2026年3月オープン

高級寿司と同じ極上素材を産地直送でお届



104席あり 道後温泉地域の
夕食難民、昼食難民を救います！！
10:30～22:00

